

王安憶文学作品における上海語研究 (5)

—『流逝』(その5)—

吉田陽子

『流逝』について (第5章41頁～第5章49頁)

頁-行	下線の語彙—上海語 ローマ字—上海語の発音	説明 (文章の翻訳)、(共通語)
41頁4～6行 (以下「41-4～6」と略す)	咪咪本来就和他很好，但曾经因他用手 <u>捞菜</u> 吃，打了他的手心，于是就老问他：“庆庆，你恨我吧？” 捞菜(làocāe)	(咪咪は元々坊やと仲が良かったが、坊やが手でお菜をつまんだ時、手をたたいたので、何回も「慶慶君、私のことが嫌い？」と聞いた。) 捞菜:お菜をつまむ。捞菜＝〈抓菜〉
41-8～10	庆庆是个很有感情的小孩，经过这两年的共同生活，已经完全站在瑞丽他们的立场上了。有野小鬼来闹事，他会简洁而严正地指责：“坏！” 野小鬼(yhíaxiāojū)	(慶慶は感情がとても豊かな子どもであり、ここ二年の共同生活を経て、もう完全に端麗側の味方になっている。騒ぎを起こしに来るいたずらっ子がいると、坊やはきっぱりと「悪い！」と相手を怒る。) 野小鬼:いたずら小僧。野小鬼＝〈捣蛋鬼〉
41-15、16	买菜回家，她常常下意识地弯腰去 <u>寻</u> 牛奶； <u>烧饭</u> 时常常把锅倾斜一点，使低处的饭能 <u>烂</u> 一些可供庆庆吃； 寻(xhín) 烧饭(sàovái) 烂(lái)	(食材買いかから帰ってきて、彼女は意識的にしゃがんで牛乳を捜したりして、又、ご飯を炊く時、鍋を斜めにして、低いところのご飯を少し柔らかく炊き、慶慶君に食べさせるようにする。) 寻:探す。寻＝〈找〉 烧饭:ご飯を作る。烧饭＝〈做饭〉 烂:ご飯やお菜を柔らかく調理すること。(例えば【烂饭 láevái】は、「軟飯」の意味。) 烂＝〈软〉
41-26～42-3	金花阿姨一口答应帮她找人家，却死也不肯收蛋糕，连连说：“ <u>罪过</u> ！ <u>罪过</u> ！”要说过去她对瑞丽家的窘迫还有些怀疑，以为他们是“真人不露相”， <u>哭穷</u> ；而如今她是真相信了。她说：“像你这样的 <u>盘房小姐</u> ，少奶奶，居然帮人家领小孩，必定是山穷水尽了。” 罪过(zhēgū) 哭穷(kokjhión) 盘房小姐(bhéuvánxiāojiā)	(金花おばさんは彼女にベビーシッターを探すのを協力すると二つ返事で承諾したが、どうしてもケーキを受け取ろうとせず、「恐縮です！恐縮です！」と、しきりに言う。以前なら、金花おばさんは、端麗家の家計の困窮に対して少し疑って、「お金持ちは貧乏人の振りをする」ので、貧乏だと泣きごとを言っているだけと思い込んでいた。しかし、今となって事実であると信じるようになった。金花おばさんは、「あなたのような箱入り娘だった奥様がベビーシッターをしたいなんて、きっと、行き詰まっているに違いない」と言った。) 罪过:恐縮です。罪过＝〈过意不去〉 哭穷:貧乏だと泣きごとを言う。哭穷＝〈装穷〉

		盘房小姐:箱入り娘。盘房小姐＝〈闺秀〉
42-5	“张家媳妇，”她总是这样称瑞丽，“你会织绒线衫吧？” 绒线衫(niónxīshàn)	(「張さん家のお嫁さん」と、彼女はいつもこのように瑞麗を呼んでいる。「セーターを編めるの?」と聞いた。) 绒线衫:セーター。绒线衫＝〈毛衣〉
42-7~9	“不要客气，不要客气。有个老太太想织件绒线衫，只要暖热，不要好看。送出去织吧，全是机器摇，可惜了好绒线，想找人手织。” 绒线衫(niónxīshàn) 暖热(néunǐk) 摇(yhiáo) 绒线(niónxī)	(「遠慮はご無用です。遠慮はご無用です。セーターを編んでもらいたいおばあさんがいて、綺麗さよりも、温もれば良いそうだ。外に出して編んでもらうとすべて機械編みとなってしまう、良質の毛糸がもったいないので、手編みをしてくれる人を探している」と。 绒线衫:上記「42-5」に同じ。绒线衫＝〈毛衣〉 暖热:暖かい。暖热＝〈暖和〉 摇:かさをまわしてかけた糸で編む。 机器摇＝〈机器织〉 绒线:毛糸。绒线＝〈毛线〉
42-13	“我不要工钱，我横竖没事情，织织玩玩。” 横竖(hhuánsǐ)	(「手間賃は要りません。どうせやることがないので、編むのを楽しむから」と。) 横竖:どうせ。横竖＝〈反正〉
42-14、15	“这有啥客气的?这是人家托我的事。工钱我打听过了，四块钱，好吧?” 有啥客气(yhióesākèkqī)	(「何か遠慮することがあるの?人に頼まれている事なんだ。手間賃はもう聞いた。四元ではどうですか?」と。) 有啥客气:何か遠慮することがあるか。 有啥客气＝〈有什么客气〉
43-5~7	其实不用开口，金花阿姨也知道她的来意，歉然说：我一直在打听，没有合适的人家。不过，我听讲街道工场间最近缺人手，你可以去申请一下嘛!” “工场间?” “生活很轻的，当然钞票也不多，我也不大清楚。” 听讲(tìngān) 工场间(gònzhangàe) 生活(sànhhuok) 钞票(cāopiāo)	(実は、言わなくても、金花おばさんは彼女が来たわけが分かっているので、申し訳けなさそうに、「ずっと聞いているが、適当なところが見つからなかった。でも、聞くところでは、最近、町内の下請工場は人手不足のようだから、申し込みに行ってはどうか?」と言った。 「下請工場」ですか?」と聞いた。 「仕事は楽だが、勿論給料も多くない。詳しいことはよく分からない」と言った。) 听讲:聞くところによれば。听讲＝〈听说〉 工场间:下請工場。【街道工场间 gàdháo gònzhangàe】は、文革時、町内で興した小規模な下請工場である。下放の為、身体検査を受けたが、不合格となった青年や主婦がそこで働いていた。仕事の内容はまちまちで、例えば、工芸品工場の中国画を上絵きしたり、輸出用のぬいぐるみの製造などをしていたところもあった。) 生活:仕事。生活＝〈工作〉 钞票:お金。钞票＝〈钱〉

43-16、17	金花阿姨推开她的手：“那老太太穿了嫌小，卖给我了，只要毛线钱，手工费就算她蚀的 <u>老本</u> 。” 蚀老本(zhèklǎobēn)	(金花おばさんは彼女の手を押し退けて、「そのおばあさんは、着てみて小さすぎると気に入らなかったの、譲ってくれた。毛糸代しか取ってくれず、手間賃は、おばあさんの損になる」と言った。) 蚀老本:元手をすってしまった。蚀老本=〈亏本〉
43-22、23	战争在端丽眼里太遥远了，她只知道多多不在家，不能 <u>搭搭手</u> 了。 搭手(dāksōe)	(戦争は、端麗にとってあまりにも遠いことであり、多多が家に居なくなると、手をかすことができなくなることだけが分かっている。) 搭手:手をかす。(【搭搭手 dākdāksōe】は、動詞の重ね型。)搭搭手=〈帮帮忙〉
43-23~25	带小孩，非要有一双眼睛长在他身上，否则就会出事。这不是一瓶牛奶，碎了可以赔，这是 <u>性命交关</u> 的事啊！ 性命交关(xìnmínjiànguān)	(子どもを世話することは、絶対目を離してはならない。さもなければ問題が起きる。これは、牛乳瓶1本割ったら弁償できるのとはわけが違う。これは命にかかわることだ！) 性命交关:命にかかわること。
44-2~5	他以为生存是用来为一个极伟大的终极目的服务的。然而，左右前后观望一下，你，我，他的生活却实在只为了生存，为了生存得更好一些。吃，为了有 <u>力气</u> 劳作，劳作为了吃得更好。 力气(lìkqī)	(彼は、生きるというのは非常に偉大な最終目的の為と思った。でも、周りの人達を見て、あなた、僕と彼の暮らしは、間違いなくただ生きる為、或いはより良い暮らしができる為であった。食べることは、働く為の力をもたらすことであり、働くことは、より良い食事ができる為であった。) 力气:力。力气=〈干劲〉
44-9、10	这会儿端丽满脑子里，只有一个念头—设法进 <u>工场间</u> ，争得一份固定收入，维持家里的开销。 工场间(gònzhāngàe)	(その時、端麗の頭にはただ一つの考えしか持っていなかった。それは、何かの方法を考えて下請工場に入り、固定収入を得て、家の出費を維持したいということであった。) 工场间:上記「43-5~7」に同じ。
44-12~14	不知道是因为 <u>工场间</u> 缺人已到了不可拖延的地步，或者是为了好好改造端丽这位“资产阶级少奶奶”，回音很快来了，同意她进街道组做临时工。 工场间(gònzhāngàe)	(下請工場が人手不足で、これ以上引き延ばすことができなくなったか、あるいは瑞麗というような“ブルジョア思想の奥様”への思想改造を厳しくさせたかったか、とにかくすぐ返事が来て、彼女の町内の下請工場でパートをすることに同意した。) 工场间:上記「43-5~7」に同じ。
44-16	<u>工场间</u> 设在一幢石库门房子的底层。 工场间(gònzhāngàe) 幢(zhuān)	(下請工場はある石庫門様式の家の一階に建てられている。) 工场间:上記「43-5~7」に同じ。 幢:軒。助数詞。幢=〈座〉
44-20~22	端丽在指定给她位置上坐下，环顾了一下周围的同事们，大都是四十岁上下的妇女，有一些年纪很老的老阿姨。 老阿姨(lǎo'àyí)	(端麗は指定された場所に座り、周りの同僚たちを見回して、ほとんど四十歳以上の女性で、かなり年を取ったオバさんも何人かいることが分かった。) 老阿姨:オバさん。(上海語の「老阿姨」は、ネガ

		タイプとして使われることが多い。)
45-13~18	<p>端丽感觉到她们不时好奇地回头看看她。</p> <p>“小囡都有三四个了。会保养呀，显得多少后生。”</p> <p>“搞得真接棍，少奶奶也出来做生活了。”</p> <p>小囡(xiāonèu) 多少(dùsāo) 后生(hhóesàn) 接棍(jìkguēn) 生活(sànhhuǒk)</p>	<p>(端麗は、彼女たちが、何度も物好きなように振り返って自分を見ていることを感じていた。</p> <p>「子どもがもう三、四人がいるのに。スキンケアが上手ですね。すごく若く見える」と。</p> <p>「(文革が)激しく行われており、奥様も外へ出て、仕事をしなければならないようになった」と。)</p> <p>小囡:小さな女の子;子ども。小囡=〈孩子〉 多少:なんて。感嘆詞。多少=〈多么〉 后生:若い。后生=〈年轻〉 接棍:激しい。接棍=〈厉害〉 生活:上記「43-5~7」に同じ。生活=〈工作〉</p>
45-25	<p>“生活做得惯吗？”一个小矮个子阿姨问她。</p> <p>生活(sànhhuǒk)</p>	<p>(「仕事には慣れましたか？」とある小柄のおばさんが彼女に聞いた。)</p> <p>生活:上記「43-5~7」に同じ。生活=〈工作〉</p>
46-2、3	<p>今天半夜里她就起来了，扫地、烧早饭买菜。</p> <p>烧早饭(sàozǎováe)</p>	<p>(今日の夜中彼女はもう起きて、掃き掃除をしたり、朝ご飯を作ったり、買い物をしていた。)</p> <p>烧早饭:朝ご飯を作る。烧早饭=〈做早饭〉</p>
46-7、8	<p>“小囡大了吗？会得帮忙了吧！”一个脸很黑，上唇汗毛很浓的阿姨问说。</p> <p>小囡(xiāonéu) 会得(hhuédek)</p>	<p>(「子どもが大きくなったの？手伝えるようになったよね！」と、ある黒い顔色をし、上唇に濃い毛をしているおばさんが聞いた。)</p> <p>小囡:上記「45-13~18」に同じ。小囡=〈孩子〉 会得:できる。(上海語では、“会”よりも“会得”のほうがよく使われている。)会得=〈会〉</p>
46-9、10	<p>“老大已经十五岁，会做点了。不过跟学堂下乡备战去了。”端丽认出这女人的儿子时常来与她捣蛋作对。</p> <p>学堂(hhǒkdhán) 捣蛋作对(dāodhálezokdē)</p>	<p>(「一番上の子はもう15歳となり、少し手伝えるようになった。でも、学校の人と一緒に、戦争に備えるため農村へ行った」と言った。端麗はこの女性の息子が頻りに目のかたきにしていたずらをしに来る子どもであると分かった。)</p> <p>学堂:学校。学堂=〈学校〉 捣蛋作对:目のかたきにして、いたずらをする。 捣蛋作对=〈捣乱作对〉</p>
46-14、15	<p>“花样经透唻！一歇歇剪尖头皮鞋，一歇歇插队落户，一歇歇打仗。花样经翻下去，翻得没有饭吃才有劲！”</p> <p>“小菜难买唻……”</p> <p>端丽默默地听着阿姨们谈论的时事，很有同感，但一句也不敢插嘴。</p> <p>花样经(hòyhánjìn) 透(tōe) 唻(láe)</p>	<p>(「やり方は考え尽くしたよね！先が尖っている革靴を切ったり、農村へ下放させたり、戦争が起きると宣伝したりしている。策略を繰り返して、ずっと続けると、ご飯も食べられなくなる。そうなった時こそ面白くなる！」と。</p> <p>「食材がなかなか買えないよ。…」と。</p> <p>端麗は、黙っておばさん達が時事を論じているのを聞いて、大変同感に思うが、怖くて一言も口を挟むことができなかった。)</p> <p>*この会話では、文革時、庶民が共産党の政策に対する不満が表現されている。</p>

	一歇歇(yìkxiǎkxiǎ) 有劲(yǒujiǎn) 小菜(xiǎocāi)	花样经:色々な方法。花样经＝〈花样〉 （【花样经翻下去 hòyhánjinfàehhóqī】は、色々な方法を繰り返し使っていくという意味。） 透:とても多い。 唻:語気助詞。唻＝〈啊〉 一歇歇:しばらく。一歇歇＝〈一会儿〉 有劲:面白い。有劲＝〈有意思〉 小菜:食材;料理。小菜＝〈菜〉
46-21~24	……他们早上把带来的饭盒子送到居民食堂蒸热，这时就在 <u>工厂间</u> 里吃。端丽匆匆忙忙往家里赶，心想，以后最好也在 <u>工厂间</u> 吃午饭，省得这么奔来奔去，吃完饭，还有时间打个瞌睡呢！ 饭盒子(váehhèkzī) 工厂间(gònzhángàe)	(…彼らは、朝持ってきた弁当を町内食堂で蒸して温めてもらい、いま工場の中で食べている。端麗は急いで家へ戻る時、これから工場で昼ご飯を食べれば、このように駆け回らなくて済むし、また食後、ちょっと居眠りする時間もあると思った。) 饭盒子:弁当;弁当箱。饭盒子＝〈饭盒〉 工厂间:上記「43-5~7」に同じ。
47-4、5	好容易挨到 <u>工厂间</u> 操时间，她赶紧放下活儿，站起来同大家一起走出 <u>工厂间</u> ，站在弄堂里，她觉得很惬意。 挨到(gnádāo) 工厂间(gònzhángàe) 惬意(xiāyī)	(やっと休憩時のラジオ体操の時間まで待って、彼女は急いで仕事を置いて、立ち上がってみんなと一緒に工場を出た。路地に立っていると、彼女はとても気持ちよく思った。) 挨到:～まで待つ。挨到＝〈等到〉 工厂间:上述「43-5~7」に同じ。 惬意:気持ちよい。惬意＝〈舒服〉
47-9、10	两个女青年学着骑 <u>黄鱼车</u> ，一直骑到马路边上，不时尖声惊叫，以为要翻车了。 黄鱼车(hhuángn<Ⅲ声>cò)	(二人の女学生が四輪車に乗れるように練習しており、そのまま大通りの手前まで乗って行き、ひっくり返りそうと思い、何度も甲高い声を出して叫んでいた。) 黄鱼车:四輪車。
47-24~26	弄堂里有小孩子的嘈噪声，几个小孩背着书包登登登地穿过 <u>工厂间</u> 上楼了。端丽走出 <u>工厂间</u> ，一身轻松。 工厂间(gònzhángàe)	(路地では子どもの声が騒々しくて、何人かの子どもが学生カバンを肩に掛けて、トントントンと下請工場を横切って2階へ上がって行った。端麗は下請工場を出たら、体がすっきりした。) 工厂间:上記「43-5~7」に同じ。
48-24~26	婆婆先是高兴，跑进跑出 <u>打水潜蛋</u> 、倒洗脸水，忽又想起文光，远在北国，不知何时才能见面，不觉又落下泪来。 打水潜蛋(dānsīpūdháe)	(義母は、最初、嬉しくて出たり入ったりして、お湯の中に玉子を入れたり、顔を洗ったお湯を捨てたりしていたが、突然(息子の)文光のことを思い出して、遙か遠い北の国に居て、いつになれば会えるのかと思い、思わずまた涙が出てきた。) 打水潜蛋:お湯の中に玉子を入れる。 (「水潜蛋」とは、玉子をお湯の中に入れて、2、3分位好きな硬さまで煮る。煮汁に砂糖を少し入れて玉子と一緒に食べる。文革時、それはご馳走の一品であった。)

49-16~18	<p>回到家，见婆婆坐在她屋里，愁容满面，叫了声端丽，连连说：“<u>前世作孽，前世作孽！</u>”</p> <p>“怎么啦？姆妈。”端丽慌了，心里那不祥的疑云浓度扩大了。</p> <p>前世作孽(xhísizokník)</p>	<p>(家に戻って、義母が自分の部屋に座っているを見た。義母は心配そうな表情が顔一杯に出て、「端麗」と一声かけて、しきりに、「前世に罪作りをした、前世に罪作りをした！」と言っている。「どうかしたの？お母さん。」と、端麗は焦ってしまい、心の中のあの不吉な疑念が広まった。)</p> <p>前世作孽:前世に罪作りをしたことを指す。</p>
49-24~27	<p>“这个人真不讲仁义，当时他<u>横追竖追</u>，是他主动的呀！不过，一个在上海，一个去乡下，确实也不好办！”</p> <p>“这种毛病叫<u>花痴</u>，<u>老法人家</u>讲，要结婚才会好，这<u>哪能弄啦</u>！”</p> <p>婆婆捶捶桌子又哭了。</p> <p>横追竖追(hhuánzèuzhízèu)</p> <p>花痴(hòcì)</p> <p>老法人家(láofakníngà)</p> <p>哪能弄啦(nánénnónla)</p>	<p>(「あの人は全然仁義のない人だわ。当時、彼は一生懸命付き合っていて欲しいと、彼の方が積極的だったよね！でも、片方が上海に残り、片方が農村へ行ったので確かにやりにくいんだね！」と。「この病気は愛情の虜になった病気であり、守旧派の話では、結婚すれば、治るそうですが、どうしたら良いでしょうか！」と、義母はちょっと机をたたいてまた泣いてしまった。)</p> <p>横追竖追:あらゆる方法を使って求愛する。</p> <p>横追竖追 = 〈拼命追求〉</p> <p>花痴:女性が男性に交際を断われた後、ショックのあまり、精神を病んでしまうことを指す。</p> <p>花痴 = 〈情痴〉</p> <p>老法人家:守旧派の人。</p> <p>哪能弄啦:どうしたら良いでしょうか。“啦”は、語気助詞。哪能弄啦 = 〈怎么办呀〉</p>

【参考資料】

「日本語」

榎本英雄／范晓 著『エクспレス上海語』(白水社)1996年4月5日第6刷

宮田一郎 編著『上海語常用同音字典』光生館出版、昭和63年9月10日初版発行

「中文」

阮恒輝 著『上海話教程』上海辞書出版社、2014年8月

錢乃榮 編著『上海話大詞典』上海辞書出版社、2008年4月第5版

丁迪蒙 著『学説上海話』上海科技文献出版社、2015年1月第2版

【参考文献】

張新穎、金理 編『王安憶研究資料』(上)(下)天津人民出版社、1996年

「王安憶作品」

『海上繁華夢』王安憶自選集之一・中篇小説卷、作家出版社、1996年